

平成 20 年 1 月 27 日

武庫川流域委員会
運営委員会 委員長 松本 誠様

武庫川流域委員会
委員 伊藤益義

武庫川の流量把握とその対策について

最近の武庫川の流量の低下は著しく、生物に与える影響も大きいものと考えます。

ところが河川管理者は最近のデータ把握に即時性が無く、実際には 1 ヶ月ごとに観測してその結果を H・Q に作成し、水位データから流量を算出するという状況になっており、対策の遅れによる生物に対して壊滅的打撃を与える可能性さえあります。

一方洪水対策は、「みんなでつくる明日の武庫川」のホームページ <http://125.200.105.85/index.php> で見ると、水位は毎日時間ごとに把握され提供されていますが、低水位に対しては何の対策も考えられていません。

高水位の時は青野ダムの調整機能を使うようになっていますが、低水位のときは青野ダムの放流追加とか、用水の取水制限をすとかの対策が打たれて当然と考えますがいかがでしょうか。

河川整備基本方針では①洪水、高潮などによる災害の発生の防止又は軽減に関する事項と併せて②河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項が取り上げられています。この面での取り組みの遅れが大きすぎるように思いますので、河川管理者のお考えを聞かせて頂きたいと思えます。

以上